

事業名:	社会的養護出身者に対する自立支援事業
資金分配団体:	公益社団法人 ユニバーサル志縁センター
実行団体名:	非営利活動法人スマイルリング
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設の子ども達 ・児童養護施設を退園した子ども達及び青年達 ・少年院、少年鑑別所、刑務所等を退所した子ども達及び青年達 ・その他社会的養護を必要とする子ども達及び青年達

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年12月19日

[こちらの記載例](#)を参考に作成ください。

また、事業終了時の評価に関する[完了報告書のフォーマット\(暫定\)](#)はこちらです。

I. 事業概要

事業概要
<p>児童養護施設の子供や退園後の若者達、少年院を出院した若者達が、自己肯定感を高め、安心して幸福な人生を送る為の支援を行う。社会人としてのマナーを身に付ける講座や、支援員と一緒に家事などを行い、悩みがあればいつでも相談に乗ることができる関係を構築する。その為にも、児童養護施設在園中及び少年院の在院中からイベントなどを通して顔を覚えてもらい若者達との関係を構築し、退所後も継続的につながり続け、彼らが社会の中で自信を持ち、安心して生きていける為のサポートを行っていく。現在コロナ禍で多人数での施設内でのイベント開催が難しい為、屋外でのイベントや少人数ずつでの開催など、対策を取りつつ支援活動を行う。</p>

II. 進捗報告の概要

総括
<p>コロナ禍の為、講師を招いての社会人講座は開催できなかったが、スタッフと共に食事を作ったり、掃除やゴミ分別などを行い、金銭管理の相談なども受ける中で、青年も一人一人の課題は違えど、それぞれが少しずつ、日常生活が向上した。</p> <p>食事の用意やお弁当を作ることに挑戦し、他の青年のお弁当を作ってくれる者や、率先して掃除を行う者、茶碗を洗ってくれる者、ごみの分別やゴミ出し等を覚えてシェアハウスを清潔に保つなど、各人の成長が見られ、お互いに良い影響を与え合う場が生まれた。感謝の言葉を伝えあい、お互いを褒めたり認めたりし合うことで自信がついたり、コミュニケーション能力の向上も見られた。</p> <p>毎週日曜日の畑作業では、回を重ねるにつれ青年の参加者やリピーターが増えていき、青年達とスタッフ、他団体の多種多様な人々との楽しい交流の場となった。</p> <p>毎回スマイルリングの青年達が、楽しそうに農作業を率先して頑張ることで、他の参加団体の参加者に大変喜ばれ、彼らに役割や自信、安心できる居場所ができ、青年達の笑顔がととも増えた。</p> <p>畑への行き帰り道も、ゆっくり対話が出来る時間となるなど、とても良い効果があった。</p>

地元帯広の児童養護施設へは、コロナ渦で立ち入りが出来ず、在園中の子供達との関係構築が難しかった。その中で釧路まりも学園では、屋外運動場で打上花火をサプライズプレゼントし、また、他のイベントに、学園職員と共に児童に随行し、関わりを持つなどの努力をした。

帯広少年院では、少年院のドキュメンタリー映画「記憶」上映会や講話、面接などを行った。毎年開催しているボクシングセッションはコロナ渦で行えなかった。11月の帯広少年院閉庁に伴い、今後は千歳市の北海少年院での青年達との関わりが中心になる。通うには距離があり大変にはなるが、少年院在院中の青年達に「スマイルリング」の名前を覚えて貰う為の努力が必要である。

大勢で集まれない分、青年達一人一人との対話に重点を置いた。電話やLINEなどで、毎日相談が寄せられ、一人一人と心が通い合う関係性が構築できた。

その効果として、今まで相談に乗ってきた青年達の繋がりから、他の児童養護施設出身、少年院出身の青年の悩みを聴いてあげてほしいと連絡が入ることが増え、そこからシェアハウスへの保護に繋がったケースが生まれるなど、一人の青年に親身になって関わることから生まれる相乗効果があった。

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
01) 若者達が就労し、その後就労が継続する。	10月までの地元十勝での就労8件、道内1件、道外2件 計11名。全員就労継続中。
(02) 若者達がいつでも帰ってこられる居場所がある。	シェアハウス「スマイルリングホーム」を運営。10月までの来訪者数22名/居住者数6名
(03) 若者達の生活能力（衣食住の安定、健康管理など）が向上する。	シェアハウスへの入居をキッカケに、衣食住が安定し、安心して眠れる生活を送れるようになった。10月までのスタッフとの料理や掃除等の生活講座回数17回 参加者8名
(04) 児童養護施設及び少年院退所後の若者達の悩み事を相談できる。	<p>青年に徹して寄り添い耳を傾け、相談件数がとても増えた。電話、LINE、直接会っての相談件数 623件</p> <p>受け入れ企業の開拓数 【目標5社】 7社</p> <p>・各種講座等の数 【目標6回】 14回</p> <p>・イベント数 【目標5回】 10回</p> <p>・スマイルホームの利用者数 【目標10人】 5人</p> <p>・マスコミ掲載数 【目標5回】 11回</p> <p>・振袖支援人数 【目標5人】 1人</p> <p>・相談窓口利用者数 【目標45人】 42人</p> <p>・アウトリーチ回数 【目標15回】 9回</p> <p>・支援会議開催数 【目標9回】 7回</p>

活動	進捗状況	概要
居住支援事業（当法人借り上げのスマイルリングホームでの居住、食事提供、就労相談、洋室への改修）	ほぼ計画通り。	今夏は全国からの入居青年が最大 6 名に増え、食事や安心して生活できる環境を整えることが出来た。現在は 3 名が入居中。その全員が就労し、継続中である。一部屋の洋室への改修ができた。
知識習得等支援事業（ファイナンシャルプランナー等による講座実施、部屋の掃除方法や日常生活の仕方等の講座実施）	ファイナンシャルプランナー等の講座はできなかった。スタッフによる日常生活の講座はほぼ計画通り。	外部講師等による講座はコロナ渦で開催が出来なかった。日常生活に役立つ講座は、スタッフと共に買い物から料理、掃除、ゴミ分別などを共にする中で、入居者やスマイルリングホームに集ってくる青年達と月に何度か開催することが出来た。
社会的養護出身者の生きづらさを考えるシンポジウムの開催	ほぼ計画通り。	釧路市にスマイルリングボランティアチームが誕生した事をきっかけとし、まりも学園と共同し、小規模ながらシンポジウムを開催した。釧路スマイルリングチームのほぼ全員が、社会的養護の子供や青年と関わるのが初めての経験であり、彼らの持つ社会での生きづらさを知り、考える機会ともなった。今後はコロナ渦の落ち着きを見て、地元や他の場所での開催も計画していきたい。
イベント支援事業「児童養護施設（2 施設）」での打ち上げ花火会の実施、クリスマス会の実施 若者達へ夢や希望、思い出作りを支援（振袖支援の実施 ポクシングセッション・講話「坂本博之、川崎竜希、畠山昌人」の実施）	ほぼ計画通り。	釧路市児童養護施設まりも学園にて打上花火大会を実施し、子供達に喜んでもらうとともに、スマイルリングの存在を知って貰った。各施設によりコロナ対策などが異なり、地元帯広では開催出来なかった。ポクシングセッションもコロナ渦で中止。釧路市、帯広市で振袖支援を実施。青年が諦めていた人生一度の晴れ姿を、支援関係者と協力して各地で実施できた。この思い出が、彼らの人生の糧になってくれたらと願う。
イベント支援事業（支援者及び社会的養護出身者による畑体験交流会）	ほぼ計画通り。	多団体と合同で実施している畑事業「ミナイカシ」は、毎週日曜日に開催。様々な人々と一緒に楽しく農作業をすることを通して連帯が生まれ、青年達の活躍出来る楽しい居場所になっていく事で、コミュニケーション能力が上がった。
相談支援事業（地元児童養護施設出身者の食事を通じた交流会、全国からの相談サポートの実施）	ほぼ計画通り。	食事は毎回楽しみに集ってくれた。普段あまり会えない青年達との大事な交流の場でもあった。 毎日、電話やLINEでの青年からの相談があり、繋がりが続けることが大切だと実感した。少年院出身の青年の再非行を留めるなどは、やはり浅い信頼関係では難しい。 少年院在園中の青年達に、社会に出てからの頼ってこられる存在（スマイルリング）がある事を知って貰うことが必要。
普及活動事業（道内外での講演会、少年院での講演会の実施、道内外での少年院ドキュメンタリー映画「記憶」の上映会の実施）	ほぼ計画通り。	少年院に入所する青年の背景にはどんな問題があるのかを考える機会として少年院のドキュメンタリー映画の上映会を実施。

職業相談支援事業（支援企業による職業体験、見学会や、就労のサポート及びアフターフォローの実施）	ほぼ計画通り。	コロナ禍で、児童養護施設での職業体験などは開催出来なかった。 しかし、支援企業や、当法人代表理事の堀田が今年青年達の就労の場として立ち上げた「合同会社スマイルリング」での職業体験、就労、就労後のきめ細やかなフォローをすることで、青年達の就労に対する不安を少しずつ払拭し、自信をつけていくことで、社会で生きていく力を身につけていくことを目指した。
---	---------	---

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>「若者達が、自己肯定感を高め、安心して幸福な人生を送る為の支援」の為に必要なものは、「心から安心して居ることのできる居場所」、「何でも相談することが出来る繋がりがあること」、「役割があること」と考え実践してきた。</p> <p>シェアハウスでの暖かな食事、落ち着いて暮らせる住環境、一人一人とのコミュニケーション、特に彼らの言葉を傾聴することに力を入れてきた。しかし、毎日の電話やLINEなどの相談件数の多さやシェアハウスでの雑務がとて多かつたのに対して、時間やスタッフが足りず、事務仕事などが全くできない状態になってしまった。</p> <p>今年は想定以上の青年が道外からも助けを求めてきて、シェアハウスに入居し、また、通ってきて対話や食事をするなどの青年もあり、スマイルリングホームには常に人がいっぱい状況だった。</p> <p>どう工夫しても食費などがかかりすぎてしまったが、彼らの安心感や幸福感を高めるためにはどうしても必要なことであったと思う。今後も食糧支援の団体や企業などとの連携を深めることが、事業遂行の為には必要。また、食事を作るなどのボランティアスタッフの育成なども課題。</p> <p>スマイルリングホームは彼らにとっては「実家のような場所」。その暖かな雰囲気を保つことは、全ての事業の達成の根っこになると感じている。</p> <p>全国から寄せられる青年からの相談も増えた。少年院出身の青年が、他の少年を紹介してくるなど、どの青年も深刻な悩みや困難に直面していたり、また罪を犯してしまう恐れもあるなど、彼らの心にしっかり向き合い、きめ細かに支え励ますことは欠かせない。</p> <p>その為の時間をもっともっと作ることが必要だと実感している。</p>

V. インプット

			2021年度		執行金額	執行率
事業費	直接事業費		¥2,895,092		¥1,827,274	63%
	管理的経費		¥0		¥0	%
合計			¥2,895,092		¥1,827,274	63%

補足説明	シェアハウス利用者が増え、食費や寝具など必要なものが想定以上に増えたことや、立て続けに家電などが故障し買い替えを余儀なくされるなどした。
------	--

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

「スマイルリング」を知って頼ってくれることで繋がれた青年が増えるのはとても良いことだが、スタッフが全員本業を持ち、ボランティアで仕事が終わってからの活動の中でのシェアハウス運営や、電話、LINEも含めた多くの相談に乗るのは、とても負担が大きい。また、一番困っているのは経理や事務仕事などが全くと言っていいほど出来ない状態。

書類、経理、シェアハウスの管理などを担う人材を探し育成することが急務。

VII. その他

自由記述

青年達との信頼関係が深まるほどに、そこから新たな青年との出会いがうまれるなどして全国からの相談件数も増えていった。大阪、新潟、岡山、埼玉など、道外からほとんど無一文の状態ですべて「飛んでくる」青年達が現れ、そのほとんどが「突然」であった。当日になって連絡がきた青年もいて、最大で6名の入居者が居たときには、毎日の食事や掃除などが本当に大変だった。

それに加えての電話やLINEでの相談も多く、特に9月は少年院出身の青年達からの深刻な相談が重なり、毎日が戦争のようだった。

毎週日曜日の畑通いも、朝から夕方まで10月いっぱい続き、本当に賑やかで大変で、しかし、青年達の成長をうんと感じられる日々となった。

マスコミ取材も多く、社会へ社会的養護の青年の抱える問題提起をすることが出来たことは良いことだった。

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	有	十勝毎日新聞/ 北海道新聞掲載/朝日新聞/釧路新聞 NHK/FMラジオ 現在NHK取材中
広報制作物等	無	これから作成
報告書等	無	これから作成

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	1.開催	昨年度の事業報告、会計報告を行い、今年度の事業計画を審議し了承された。理事会は今年12月に行う予定。
2. 内部通報制度は整備されていますか。	整備中	JAPANIA資金分配団体等役職員専用ヘルプラインの利用を検討中であり、関係者への周知や相談できる内容、通報等の方法を文書にまとめているところ。